

## さまざまな教科と連携 国際教育の情熱を共有

岡山市立京山中学校の1年生の英語の授業。この日のテーマは、現在進行形の文法だ。その練習の材料として用いられたのは、モザンビークの街中を写した19枚の写真だった。

「女の人がニワトリを売っています」「子どもたちが友達と話をしています」



世界とつながる  
教室

など、生徒たちは習った英文法を使って写真の様子を描写していく。

その後、生徒たちはペアを組んで1枚の写真から読み取れる事柄を書き出す作業を始めた。「現在進行形を使って写真の説明をしながら、モザンビークの良さや日本との違い、文化的な特徴なども読み取りましょう」。そう生徒たちに呼び掛けるのは、英語科を担当する竹島潤先生だ。竹島先生は、2010年から昨年

## 教科横断で 世界への関心を広げる

岡山県岡山市で英語教師を務める竹島潤先生は、2011年にJICA教師海外研修に参加して以来、研修で築いたネットワークを生かした国際教育を展開している。教科横断による授業には、異文化に対する生徒の関心と理解を深める工夫が散りばめられている。

モザンビークの写真から読み取れる内容を英語で発表する生徒たち。1枚の写真が、英文法を学びながら外国を理解するための教材となる

国際社会に生きる日本人としての自覚を高めてほしいと思います」と話す。

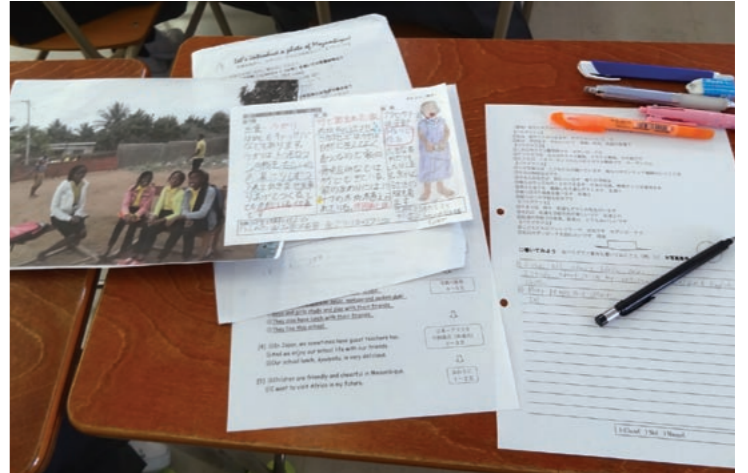
社会の時間にインターネットや資料集などを使って事前にアフリカ諸国について下調べをしていたため、生徒たちは青年海外協力隊が書いたモザンビークの紹介文を事前知識と照らし合わせながら読むことができた。また、美術の時間に、1枚の写真を多角的に鑑賞する方法を学んだことで、写真の背景情報まで深く類推して考える力やそれを発信する力も身に付いた。

「いろいろな教科を通して学習することで、文化の大切さがよく分かった」「英語の授業で他国についても学べるのは効率的」「今まで、暑い」というイメージしかなかったけれど、日本との共通点も多いことが分かった」など、教科横断による国際教育は生徒たちからも好評だ。

授業を通じて、将来、国際協力の仕事をしたい」と話すようになった生徒もいるという。



青年海外協力隊としてモザンビークで活動中の友人を訪ねた竹島先生(中央)。竹島先生はJICAの開発教育指導者研修にも参加し、他校の先生たちと国際教育の事例を共有しながら授業に役立っている



モザンビークについてまとめた1年生の資料。竹島先生の国際教育は、教科の内容を軸に表現力や発信力、世界について考える力などを鍛えるもの。3年生の中には、「中学での学びの集大成のようだった」と話す生徒もいる

ちの生活とアフリカの生活の相違に気づき、その良さを英語で表現しよう。英語の授業だけでなく、他の教科とも連携した横断的な授業の実践が特徴だ。

昨年は、社会の時間にアフリカ全体や個別の国を取り上げて地理的なイメージをつかみ、美術の時間には、アフリカの写真を鑑賞して現地の生活や文化への理解を深めるなど、4科目で計12時間の授業を行った。それらの学習を踏まえて、生徒たちは英語の時間に日本とアフリカ・モザンビークを比較する英文エッセイを書き、発表したのだ。

他教科との連携による授業のプログラムは、竹島先生が計画全体の骨子を作り、他の先生に提案するかたちで進めたという。「計画を共有する中で、他の先生方にも、面白そうだな」と思ってもらったことが大切だ。協力が得られた後は、それぞれの専門的な観点から新たなアイデアが付け加えられていきました」

## 授業の材料は自分で集める 人脈を生かした国際教育

授業で使用したモザンビークの写真の多くは、竹島先生が現地から自ら撮影した

ものだ。2011年のJICA教師海外研修の際に知り合った他校の先生が、その後、青年海外協力隊としてモザンビークに派遣されたことを受け、同じ研修仲間と一緒に、その先生を訪ねてモザンビークまで足を運んだのだ。「生徒たちに、より現実味のある途上国の情報を伝えたいと思い、現地では授業に生かせる材料を探しながら過ごしていました」と竹島先生は話す。

こうして撮影された19枚の写真を授業で目にした生徒たちは、「写真に写っている人の多くが笑顔で、いい国なんだな」と思った。「モザンビークには自然がたくさんあるだけでなく、スーパーマーケットなどのにぎわっている場所もあるんだな」と思った「など、さまざまな気づきを得たようだった。

さらに、授業では友人の青年海外協力隊員が英語で書いたモザンビーク紹介文も教材として活用。こうした多様な教材を使った授業について、竹島先生は、「英語でアフリカの生活や文化に触れる中で、言語や異文化に対する関心を高め、それらを尊重する心を育てることが狙いです。また、青年海外協力隊の活動を知ること、世界の国々への理解を深め、

「教える子が外国語系や国際系の大学に進学したという話を聞くのは、本当にうれしいものです。現在の赴任先の旭東中学校でも、国際協力に取り組むNGOなどと連携しながら授業を実施していけるよう、準備を進めています」と竹島先生。国際教育にかける思いは確実に生徒に届いている。



モザンビークの中学校を訪れた竹島先生。京山中学校の1年生の取り組み内容は、青年海外協力隊を通じて現地の中学生にも伝えられた



モザンビークの首都マプトの様子。「生徒たちには、『結構、日本と似ているなあ』とやっぱり違うなあ、どちらの感想も大切にしてもらいたいと思います」と竹島先生